

平成30年度 事業報告書

(事業の概要)

1 研究助成事業

(計 画) 薬力学の研究に従事する者に対し、研究費(30万円×2件予定)を助成する。

毎年、ホームページ上に募集要領を公開し、研究助成金交付対象者の公募を行っている。選考方法は、審査委員会を開催し、当該委員会で応募書類を審査のうえ、結果を理事会に報告する。

理事会は当該報告を受けて、助成対象者を決定し、助成金を授与する。

(内 容) 今年度は、募集要領を平成30年8月9日から平成30年10月31日まで、ホームページ上に公開したうえで、医・歯・薬学系の学部を有する、全国の国公立大学の広報部門へメールでご案内し、関係学部の研究者への学内周知を依頼した。

その結果、12名の応募者があった。

審査委員長より、平成31年1月22日に結果報告があり、平成31年3月4日通常理事会において、下記2名に30万円の助成金を授与することに決定した。

・工藤 篤 氏(東京医科歯科大学大学院 肝胆膵外科学分野 講師)

研究題目 「膵神経内分泌腫瘍の肉眼型分類の validation study」

・福島啓司 氏(東京医科歯科大学医学部附属病院泌尿器科 医員)

研究題目 「運動や骨格筋量が尿路上皮癌における免疫チェックポイント阻害剤の治療効果に及ぼす影響の解明-癌微小環境における免疫ネットワークに着目して」

助成金は、受賞者所属大学の寄附金受入規程に則り、東京医科歯科大学へ平成31年3月14日、各々振込手続きを行った。

また、3月11日の評議員会開会前に研究助成金受賞式を佐藤理事長より評議員同席のもと受賞者2名に対し研究助成通知書の交付を行った。

なお審査委員会は、大塚正徳審査委員長(東京医科歯科大学名誉教授)、村越隆之委員(埼玉医科大学医学部教授)原 諭吉委員(東京医科歯科大学名誉教授)、東 洋委員(東京医科歯科大学名誉教授)の4名で構成されている。

2 学術講演会等の開催及び助成事業

(計 画) 薬力学に関する学術講演会、研究討論会を開催し、これらの事業に対して助成する。

薬力学に関するテーマを定め、当該テーマに則った講演会を、少なくとも年1回開催する。一般の方が参加しやすいよう、開催場所、時間帯を考慮し、50~100名程度の受講者を想定し、開催の周知は、ホームページ上での案内、学内のポスター掲示等により行っている。受講は無料。また、時宜を得た学術研究のテーマなどに関する講演会及び研究討論会への助成を行う場合もある。

(内 容) 今年度は、自開催の講演会を平成31年2月19日(火)18時00分から20時00分まで、お茶の水医学会館9階大会議室にて開催した。

講演内容は、

(特別講演)

東條 有伸氏(東京大学医科学研究所 先端医療研究センター

分子療法学分野教授 病院長)

演題:「未来医療、プレジジョンメディスンに及ぼす人工知能(AI)のインパクト」

(研究助成金受賞講演)

佐藤信吾氏(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科

細胞生理学分野・腫瘍センター講師)

演題:「骨折リスクを考慮したHIV治療戦略」

長谷川久紀氏(東京医科歯科大学医学部附属病院膠原病・リウマチ内科助教)

演題:「ヒトiPS細胞由来CD8T細胞によるヒト筋細胞障害系の確立と多発性筋炎の病態解明への挑戦」

の3講演を行った。各講演後は、活発な質疑応答が行われた。

また今回の参加者は36名、そのうち約半数は学外からの参加者であった。

3 献体業務助成事業

(計 画) 薬力学の進歩発展のため、医学教育及びこれらに関連する献体業務に対して助成する。この助成は、医学教育に欠かせない人体解剖実習に必要な献体業務への支援であり、医療人教育に貢献している。

さらに、不特定多数の利益(健康増進と医療内容の向上)に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる事業である。

助成の実施に関しては、東京医科歯科大学より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定している。

(内 容) 今年度は、平成30年11月13日、東京医科歯科大学に対し、30万円の助成を実施するとともに、大学の献体の会事務局を通じて篤志解剖全国連合会の会費支援等を行った。

4 教育助成事業

(計 画) 東京医科歯科大学大学院の教育の充実を図ることで薬力学の進歩発展に寄与するため、当該大学院に対し助成する。この助成は東京医科歯科大学大学院を支援、充実させることにより、優秀な研究者を輩出し、研究の進歩、高度化を図ることを目的とする。このことは不特定多数の利益(健康増進と医療内容の向上)に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる。助成の実施に関しては、東京医科歯科大学より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定する。

(内 容) 今年度は、平成30年11月13日、東京医科歯科大学に対し、23万円の助成を実施した。

5 学術出版助成事業

(計 画) 薬力学の進歩発展のために、医学教育、医学研究、診療の研究に関する出版物(雑誌)の刊行に対し助成する。この出版物刊行への助成を通じて、学術的知識の集成と周知を図り、医療人の育成に貢献する。このことは、不特定多数の利益(健康増進と医療内容の向上)に寄与し、広く人類の福祉への貢献につながる。

また、当該出版物(雑誌)は東京医科歯科大学のホームページ上で誰でも無料で閲覧できる。さらに、広く地域医療に携わっている開業医及び勤務医に対しても同窓会組織を活用し配布している。このように広く一般に利用できることから学術の振興に貢献していくものとなる。助成の実施に関しては、東京医科歯科大学お茶の水医学会(「お茶の水医学雑誌」発行)より助成内容について申請を受け、内容について審査を行ったうえで助成を決定する。

(内 容) 今年度は、平成30年8月28日、お茶の水医学会に対し30万円の助成を行った。更に特定寄附金を「平成30年度お茶の水医学雑誌の発行」募集し、お茶の水医学会に対し平成30年8月28日2、619千円の助成を行った。

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和元年6月
公益財団法人薬力学研究会